

利休好写 板風炉

給湯器としてお部屋で使える

&

飯胴型火鉢

A - 1



A - 2

A - 3



利休好写 板風炉

千利休が旅簞笥同様、小田原の陣中で好んだのが始まりとされている。当初は「上げ炉」・・・本炉を床又は地面に上げたもの・・・と伝えられている。故に灰は炉灰を使うことになっている。好みの本歌は残っていないが、小ぶりにし板張りで中に炉壇同様土壁を塗り固め、火窓をつけた草の風炉である。わびたものとして10月、11月初旬に名残りの茶事などとして多く使われる。またその形状から和室の隅で、常設の給湯器として鉄瓶などで便利に使われることも多い。

※鉄瓶は別売です。

A - 1 利休好写 板風炉 (敷瓦・底瓦付)
雄斎作 **特価 ¥ 89,800**

A - 2 南鐐撮 富士釜 菊地政光作 (桐箱)
特価 ¥ 73,500

A - 3 飯胴型火鉢 敬典工房作 (桐箱)
特価 ¥ 44,800

菊地政光作 鉄瓶 (桐箱) **特価 ¥ 40,600**



No.91 万代屋

No.92 阿弥陀堂

No.93 鉄鉢

No.94 真形

No.95 浜松地紋

No.96 常盤